

1. 略歴

1994年4月	東京大学教養学部文科三類入学
1996年4月	東京大学文学部言語文化学科日本語日本文学（国文学）専修課程進学
1998年3月	同 卒業
1998年4月	東京大学大学院人文社会系研究科日本文化研究専攻日本語日本文学専門分野修士課程入学
2001年3月	同 修了
2001年4月	東京大学大学院人文社会系研究科日本文化研究専攻日本語日本文学専門分野博士課程入学
2006年3月	同 単位取得退学
2009年4月	東京大学大学院人文社会系研究科日本文化研究専攻日本語日本文学専門分野博士課程再入学
2010年3月	同 退学
2010年7月	博士（文学）学位取得（東京大学）
2011年4月	ノートルダム清心女子大学文学部 専任講師
2014年4月	ノートルダム清心女子大学文学部 准教授
2019年4月	東京大学大学院人文社会系研究科 准教授

2. 主な研究活動

a 主要業績

(1) 博士論文

『鴨長明の研究』東京大学、2010年7月、181p.

(2) 著書

歌合・定数歌全釈叢書三『俊頼述懐百首全釈』（注釈、共著）風間書房、2003年10月、266p.担当部分：「全釈」pp.11-143、「解説（総説）」pp.147-176、「解説（後世への影響—俊恵・歌林苑をめぐる）」pp.229-240

歌合・定数歌全釈叢書十二『慈円難波百首全釈』（注釈、共著）風間書房、2009年3月、264p.、担当部分：「全釈」pp.11-237

『鴨長明研究——表現の基層へ』勉誠出版、2015年3月、424p.

和歌文学大系49『正治二年院初度百首』（注釈、共著）明治書院、2016年9月、570p.、担当部分：「惟明親王百首（注釈／補注）」pp.23-39/pp.400-403、「生蓮百首（注釈／補注）」pp.295-311/pp.439-443、「二条院讃岐百首（注釈／補注）」pp.329-345/pp.445-451、「小侍従百首（注釈／補注）」pp.346-362/pp.452-459

『近世社伝資料『和州寺社記』・『伽藍開基記』（翻刻・校注・索引、共著）和泉書院、2017年2月、562p.、担当部分：『和州寺社記』「靈山寺」「生駒山」「竹林寺」「信貴山」「長谷寺」「室生寺」pp.27-30/pp.69-72、『伽藍開基記』「巻第二」「巻第三」pp.143-208、「索引」pp.499-561

(3) 論文

『無名抄』の再検討——「セミノフカハノ事」から——『国語と国文学』第80巻第8号（東京大学国語国文学会）、2003年8月、pp.28-42

「鴨長明の「数寄」——概念と実体と——」『国語と国文学』第82巻第2号（東京大学国語国文学会）2005年2月、pp.30-42

「鴨長明『正治後度百首』の構想」『文学』隔月刊第6巻4号（岩波書店）、2005年7月、pp.93-106

「歌語の輪郭——「ことなし草」をめぐる——」『東京大学国文学論集』第1号、2006年5月、pp.93-110

『今鏡』「敷島の打聞」巻頭二話に関する一考察 小島孝之編『説話の界域』笠間書院、2006年7月、pp.130-153

「予言する和歌——鴨長明「くもるもすめる」詠をめぐる——」『国語と国文学』第85巻第12号（東京大学国語国文学会）、2008年12月、pp.47-61

『無名抄』伝本考『東京大学国文学論集』第5号、2010年3月、pp.65-83

「東山御文庫蔵『古今和歌秘密之切紙廿六』について」田島公編『目録学の構築と古典学の再生——天皇家・公家文庫の実態復元と伝統的知識体系の解明——』（東京大学史料編纂所研究成果報告）、2011年3月、pp.65-83

『方丈記』終章の方法『文学』隔月刊第13巻2号（岩波書店）、2012年3月、pp.94-110

『方丈記』が我が身を語る方法『国語と国文学』第89巻第5号（東京大学国語国文学会）、2012年5月、pp.57-72

- 「『世の不思議』への視線——『方丈記』の記憶と文学性——」『鴨長明とその時代 方丈記800年記念』(国文学研究資料館創立40周年特別展示図録)、2012年5月、pp.105-111
- 「鴨長明の和歌観——『無名抄』「式部赤染勝劣事」「近代歌麴」から——」『中世文学』第58号(中世文学会)、2013年6月、pp.53-63
- 「『方丈記』論——作品成立の場と享受圏をめぐって——」中世文学と隣接諸学第10巻『中世の随筆 成立・展開と文体』竹林舎、2014年8月、pp.141-165
- 「『発心集』の泣不動説話」『清心語文』第16号(ノートルダム清心女子大学日本語日本文学会)、2014年9月、pp.1-19
- 「『方丈記』の辻風」鈴木健一編『天空の文学史 雲・雪・風・雨』三弥井書店、2015年2月、pp.105-125
- 「升底切『金葉和歌集』零本についての書誌的報告」(共著)『ノートルダム清心女子大学紀要』日本語・日本文学編第39巻第1号、2015年3月、pp.12-24
- 「『源家長日記』の方法と始発期の後鳥羽院像」『国語と国文学』第93巻第4号(東京大学国語国文学会)、2016年4月、pp.53-69
- 「『源家長日記』における具親召籠事件について」『日本文学研究ジャーナル』第2号(古典ライブラリー)、2017年6月、pp.22-36
- 「道程を叙述する文体——『山家集』中国・四国関係歌群と『無名抄』から」『西行学』第8号(西行学会)、2017年8月、pp.34-53
- 「『西行物語』構想の方法——名所歌との関連をめぐって——」『国語と国文学』第95巻11号(東京大学国語国文学会)、2018年11月、pp.92-106
- 「『発心集』蓮華城入水説話をめぐって」『倉本一宏編『説話研究を拓く 説話文学と歴史資料の間に』思文閣出版、2019年2月、pp.389-410

(4) 書評・学界展望他

- 「軒端の忘草」『和歌文学大系第34巻月報29』明治書院、2006年9月、pp.3-7
- 「東山御文庫蔵『桃園天皇御製集』の翻刻と紹介」田島公編『目録学の構築と古典学の再生——天皇家・公家文庫の実態復元と伝統的知識体系の解明——』(東京大学史料編纂所研究成果報告)、2009年5月、pp.110-160
- 「今村みゑ子著『鴨長明とその周辺』」『国語と国文学』第87巻第4号(東京大学国語国文学会)、2010年4月、pp.68-72
- 「浅見和彦・伊東玉美・内田濤子・葛尾和宏・松本麻子編『古事談抄全釈』、浅見和彦・伊東玉美責任編集『新注古事談』」『成蹊国文』44号、2011年3月、pp.151-152
- 「無名草子」「方丈記」「夢記」「歎異抄」「正法眼蔵随聞記」「十訓抄」「沙石集」鈴木健一編『千年の百冊』小学館、2013年4月、pp.182-197/pp.204-211
- 「中世文学会春季大会シンポジウム「文学の生まれる〈ところ〉」レポート」『レポート笠間』第61号(笠間書院)、2016年11月、pp.116-119

(5) 学会発表・講演

- 東京大学中世文学研究会「『無名抄』再考——「セミノヲカハノ事」から——」2001年6月、於 東京大学
- 中世文学会秋季大会「鴨長明の数寄——その発露をめぐって——」2001年10月、於 京都精華大学
- 東京大学中世文学研究会「「ことなし草」考」2004年11月、於 東京大学
- ノートルダム清心女子大学日本語日本文学会大会「『方丈記』の一方——我が身をめぐる表現について——」2011年7月、於 ノートルダム清心女子大学
- 中世文学会秋季大会「鴨長明の和歌観——『無名抄』「式部赤染勝劣事」「近代歌麴」から——」2012年10月、於 京都産業大学
- 早島町立図書館生涯学習まつり文学歴史講座「西行の見た岡山」2013年10月、於 早島町立図書館
- 早島町立図書館文学講座「西行と良寛」第1~3講「西行を読む」2014年8月、於 早島町立図書館
- 輔仁大学日文学系教学卓越計画「日本古典文学研究與教学」社群系列活動「『世の不思議』への視線——『方丈記』の記憶と文学性——」2014年10月、於 輔仁大学(台湾・新北市)
- 早島町立図書館古典文学講座「岡山の歌枕」2015年9月、於 早島町立図書館
- 西行学会大会「シンポジウム 西行と長明」道程を叙述する文体——『山家集』中国・四国関係歌群と『無名抄』から」2016年8月、於 二松学舎大学
- 世界遺産で語る糺猿楽シンポジウム「鴨長明の芸能性」2016年9月、於 下鴨神社
- 早島町立図書館古典文学講座「岡山の説話」2016年11月、於 早島町立図書館

早島町立図書館古典文学講座「復曲能「吉備津宮」の世界」2017年8月、於 早島町立図書館
八女市立図書館図書館講座「浄瑠璃『義経千本桜』を読む——郷土の伝統芸能燈籠人形の演目「吉野山狐忠信初音之鼓」から古典文学の楽しさを味わう——」2017年11月、於 八女市民会館
早島町立図書館古典文学講座「能「藤戸」を読む」2018年8月、於 早島町立図書館
東京大学中世文学研究会『西行物語』構想の方法——名所歌との関連をめぐって」2018年7月、於 東京大学仏教青年会館ホール
輔仁大学日本語文学科創立50周年・台湾日本語文学会創立30周年記念国際シンポジウム『方丈記』の時間——「朧化」をめぐって——」2018年12月、於 輔仁大学（台湾・新北市）

(6) 受賞

2016年10月、第9回日本古典文学学術賞（国文学研究資料館賛助会）

3. 主な社会活動

(1) 非常勤講師

白百合女子大学文学部

成蹊大学文学部

岡山大学教育学部

ノートルダム清心女子大学文学部

(2) 学会

中世文学会委員（2013年7月～2015年6月）